

風土記

第16回

THINKフィットネス ゴールドジムベースボールクラブ(東京)

チームの資源であるフィジカルトレーニングを最大限に活用し、試行錯誤しながら成功へのプロセスを築き上げてきたクラブは、社会人野球を通じて選手たちへ人生の財産を作り上げている。

取材・構成／根本賢一

大敗からの出発

THINKフィットネス ゴールドジムベースボールクラブ(以下、ゴールドジムBC)は、学生まで夢を追いかけた選手たちに、社会人でも良い思い出を作してほしいとの思いからフィットネスクラブを経営する手塚栄司が監督となり創部された。フィットネスクラブに通う若者たちが中心メンバーとなり、2007年4月東京都春季大会に臨んだが、初戦の東京LBC戦では2対10の冷たい負けを喫して、競技力強化の取り組みが始まった。

最初のステップとして、西武ライオンズを退団した上田浩明氏をコーチに招いた。また、練習時間や場所

に制限があるクラブチームの課題を解決するためにNPBのキャンプを見学し、元企業チームの指導者等からアドバイスを受けるなどして、効果的な練習メニューを選手たちとともに作り上げた。そしてチームの資源であるフィジカルトレーニングの継続により選手たちは脚力や肩の強さがレベルアップ。着実に競技力を向上させ11年の東京都クラブ春季大会では初優勝を飾り、近年は安定した好成績を残している。

川村拓真外野手は、上武大学では公式戦安打なしで大学野球を終え、競技活動に区切りをつけるつもりだったが、監督の薦めもあり社会人ではゴールドジムBCでプレーすることを決めた。学生の頃はクラブチ

ームの存在を知らず、実際にプレーをして競技力の高さと選手たちの真剣な取り組みに驚き、努力を積み重ねてきた。その結果、14年都市対抗東京都二次予選の鷲宮製作所戦では、4打点を記録し企業チームからの勝利に大きく貢献した。大学卒業後も野球ができる環境を与えられ、社会人野球で良い思い出を作ることができたことに感謝しており、チームの活動趣旨の成果となった。手塚監督は「何かを続け、良い思い出を一度作ると、後々の人生で財産になる」と言う。川村外野手は浦和学院高で甲子園に春夏連続出場した頃の輝きを取り戻し、現在も仕事と競技の両立に取り組んでいる。

協調と良いチーム作り

ゴールドジムBCは、試合の勝敗以前に全員で協力しながら目標に向かうプロセスを重視する「良いチーム作り」を目指している。「強いチーム作り」を優先し、勝つことだけに徹してしまうと、選手集めに必要以上に注力してしまうためである。

グラウンドのないゴールドジムBCは、各選手が当番でグラウンド予約の手続きをする。「今日は誰のお陰で練習ができるか？」を考え、お互いを尊重して活動している。7年目の米倉拓也外野手は、勤務先のフィットネスクラブでは管理を任せられるポジションにいる。他の競技に取

り組む従業員も尊重し、お互いに業務と競技を両立できるようにシフト等を工夫して職場の体制を整え、業務品質向上に向けマネジメントに取り組んでいる。また、二児の父でもあるため、チームの協力を得ながら家庭との両立にも挑戦している。

経営者でもある手塚監督は「野球は予測しなければ良いプレーができないスポーツ。選手たちはこの能力が自然に身につけているので、実社会でも高いレベルのマネジメントができる可能性がある」と言う。

この先を読む能力を活かし業務に取り組む主将の仁田真彦は、勤務先では新品のトレーニング器具の出荷やメンテナンスを担当する。スムーズな対応による顧客とのより良いコミュニケーションから信頼関係を構築している。このように良いチーム作りは、競技活動だけではなく職場でも取り組まれている。

ゴールドジムBCの将来像

手塚監督は野球のように長い歴史があり、世代を超えてコミュニケーションができる競技は、それほど多くはないと実感している。クラブチームは企業チームと違い、若者と一緒にプレーできることに魅力があると考え、将来的には「競技力を追求するチーム」と「年齢に関係なく生涯スポーツとして競技を継続するチーム」の2種類のチームを編成し、



▲チームの資源であるフィジカルトレーニングに取り組む選手たち
▼テクニカル指導を担当する上田コーチ。競技力向上に大きく貢献する

いつでも野球ができようという専用グラウンドを持つ夢がある。「何歳までプレーできるかやってみないと分からない」と53歳の選手兼任監督は力強くバットを振る。

ゴールドジムBCは、07年の大敗から11年の東京都大会初優勝まで4年の時間がかかったが、多くの試行錯誤から強豪クラブチームへのプロ

セスを築き、安定した戦績を残している。今後は、競技目標である全日本クラブ選手権初出場以外にもクラブチームの課題である専用グラウンドを獲得するプロセスを築き、多世代がいつまでも競技活動を継続できる環境作りに期待したい。

試行錯誤から成功へのプロセスを築く



▲チームをまとめる仁田主将は、野球の経験を仕事でも生かしている
▼14年都市対抗大会東京都二次予選の鷲宮製作所戦で活躍した川村外野手

ねもとけんいち

1968年11月10日生まれ。千葉県出身。千葉日大一高-日本大一野球クラブ。現役時代は外野手として97年全日本クラブ選手権では準優勝を経験する。2007年野球クラブ部長に就任。その後、早稲田大学大学院スポーツ科学研究科にて、社会人野球クラブチームの運営方法を研究。13年3月修士課程修了。現在早稲田大学スポーツビジネス研究所 組織研究員として活動中。

チームデータ& チームプロフィール

THINKフィットネス
ゴールドジムベースボールクラブ

所在地
東京都江東区南砂3-36

主な成績
関東連盟クラブ選手権大会 準優勝

スタッフ
部長：出井一茂
監督：手塚栄司
コーチ：上田浩明、星野真澄、藤谷清平
マネージャー：野中俊孝、長谷川悦子、石川留衣

部員数
44名

ホームページ
<http://www.gg-baseball.com/>

東京都を活動拠点とし2007年に創部した。メンバーのうち半数がフィットネスクラブのトレーナーとして勤務する。